

日本文学科 現2・3年生

令和4年度開講「演習」仮シラバス

【日本文学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

開講学年	応募科目名	担当者	曜日	時限	ページ
3・4	日本文学演習Ⅱ	土佐 秀里	火	6	3
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	谷口 雅博	火	6	3
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	上野 誠	火	4	4
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	山田 利博	金	2	5
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	太田 敦子	木	5	5
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	塚原 明弘	木	6	6
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	竹内 正彦	金	6	6
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	荒木 優也	火	4	7
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	荒木 優也	木	6	7
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	野中 哲照	火	6	8
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	岩崎 雅彦	火	5	9
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	中村 正明	火	4	9
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	中村 正明	木	6	10
	日本文学演習Ⅲ				

開講学年	応募科目名	担当者	曜日	時限	ページ
3・4	日本文学演習Ⅱ	岡崎 直也	月	4	10
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ★	石川 則夫	月	3	12
	日本文学演習Ⅲ★				
3・4	日本文学演習Ⅱ	井上 明芳	金	5	12
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ★	井上 明芳	金	6	13
	日本文学演習Ⅲ★				
3・4	日本文学演習Ⅱ	鬼頭 七美	月	2	13
	日本文学演習Ⅲ				

※★印の科目は、原則として卒業論文履修者が履修することができる。

【上代文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火
		【時限】6
【教員名】土佐秀里	【登録番号】0000	
【テーマ】万葉びとの生活と感情		
<p>(演習内容) 本演習は、万葉集全巻のすべての歌を対象にして、そこから読み取れる当時の衣食住や労働・生産活動、恋愛・結婚・育児、生老病死のさまざまな局面など、貴族か庶民かを問わず、当時の人々の生活や人生について深く掘り下げて考えようとするものです。また、歌が人間の感情を表すものであることを重視し、そこに表れた喜怒哀楽さまざまな感情についても考察を深めたいと考えています。</p> <p>具体的な研究テーマと対象とする歌については、受講生と相談しながら決めてゆきます。単独発表で、年二回の発表を課します。なお、卒業論文で土佐を指導教員に選ぶ可能性がある人は、この演習を履修してください。</p>		
<p>(評価方法) 発表資料の質、考察の深さ、新たな着眼点、発表の工夫などを総合的に評価し、さらに質疑応答における演習への参加度や貢献も加味して評価します。</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火
		【時限】6
【教員名】谷口雅博	【登録番号】0000	
【テーマ】上代の神話・説話を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>『古事記』(中・下巻)、「風土記」等に記載された神話・説話を対象とし、学生の発表を中心に据えて授業を行う。本文の的確な読みを検討した上で、古代的な論理・信仰・習俗などの背景について考えつつ、新たな読みを模索していく。</p> <p>上代の文献には本文・訓読に問題のある箇所が多く、また解釈も定まっていない話が多い。まずは本文批判を徹底し、その上で各神話・説話の検討を行う必要がある。従って、本文などを確定する一回目と、内容を検討する二回目とに分けて発表を義務付けることになる。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>発表資料・発表内容・質疑応答 50%</p> <p>学年末レポート 50%</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火
【教員名】上野 誠	【登録番号】0000	
【テーマ】『万葉集』の風土論的研究		
<p>(演習内容)</p> <p>『万葉集』の歌々の表現が、風土とどのように結びついているのか、結びついていないのか、具体的に考えてゆきます。明日香とはどんなところなのか、平城京は都としてどのように表現されているのか、吉野の離宮はどういう構造を持っていたのか。そういった諸問題を具体的に考えてゆきます。いわば万葉小旅行のようなかたちをとりながら、風土と文学の関係を考える授業となるはずです。歴史学、考古学、民俗学などの知識を動員して考察を進めてゆきます。卒業論文を提出する人は、できるだけこの演習を履修するようにしてください。必ずプラスになるはずです。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>授業での取り組みを重視し、発表も加味して評価をします。学習への取り組みも大切なのですが、学習を楽しむ心が必要だと私は考えています。</p> <p>口頭発表 50%、口頭発表以外での授業での取り組み（質疑応答、参画、授業時提出物）50%</p>		

【中古文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】金
		【時限】2
【教員名】山田利博	【登録番号】0000	
【テーマ】『源氏物語』若紫巻を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>『源氏物語』若紫巻の一節は、ほぼ全ての高校の教科書に採用されているので、読んだことのある人が多いと思う。また内容も、元気な少女が走ってくる印象が強いため、明るい巻と思っている人が多いようである。しかしながら巻の後半では、俗に『源氏物語』一部の大事」とも称される、光源氏と藤壺の密通も描かれているため、実はそう単純なものでもない。本演習では、そうした「高校とはひと味違った大学ならでは」の『源氏物語』を味わってほしいし、そうした「読み」をすることが可能となり、その魅力を人に伝えられる人間となつてほしい。言わばそれが本演習の「狙い」である。</p> <p>山田研究室で卒論を書こうと思っている者は、履修するのが望ましい。</p> <p>テキストは基本活字本とするが、合わせて当該箇所写本も見ることにより、写本を読む練習もする。</p>		
<p>(評価方法) (前・後期とも)</p> <p>平常点評価／発表 (資料、発表内容) 40%、授業中の質問・発言等 20%</p> <p>レポート 40% (自分が発表した箇所をもとにして構わない)</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木
		【時限】5
【教員名】太田 敦子	【登録番号】0000	
【テーマ】『源氏物語』「若菜上」巻を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>『源氏物語』「若菜上」巻を対象として、日本古典文学研究の方法・理解をめざします。「若菜上」巻は、『源氏物語』第二部世界の巻頭を飾り、「藤裏葉」巻で到達した光源氏世界の栄華に新たな問いかけをする巻です。第一部・第三部の理解無しには読み進められないことから、「若菜上」巻の輪読を通じ、『源氏物語』全体の理解を目指していきます。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>出席状況、前期・後期2回の発表および、レポート提出、積極的な授業参加態度を評価の対象とします。</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木
		【時限】6
【教員名】塚原明弘	【登録番号】0000	
【テーマ】光源氏の政治と王権		
(演習内容)		
<p>受講者の発表と教員の講評により、『源氏物語』を読み進めていく。1人、年2回程度の発表を課す予定。求める内容は、音読・現代語訳・解釈の問題点・研究鑑賞。自分で感じ、考え、調べたことを出発点にして、作品を深く味わい洞察する力を身につけよう。</p> <p>今年の対象は、「少女」巻。朝顔との贈答、夕霧の元服、大学入学、雲居雁との恋、秋好立后、源氏太政大臣就任、五節の舞姫、六条院完成。冷泉帝と光源氏の政権は充実期を迎える。主人公の教育観や政治姿勢が反映する。日本史の知識や問題意識が理解を確実にする。本文の表現に立脚しつつ、歴史や民俗に配慮することによって、読みを深めて行きたい。</p> <p>ここでの分析や議論によって、受講者の読みを鍛え、問題意識や独自の視点を醸成する。レポートや卒業論文だけでなく、世界の見方につながるはずである。</p>		
(評価方法)		
出席 30%・発 35%表・年末のレポート 35%による。年末のレポートは、発表で扱った内容を発展させてまとめるのが希望。		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】金
		【時限】6
【教員名】竹内正彦	【登録番号】0000	
【テーマ】『源氏物語』「葵」「賢木」巻を読む		
(演習内容)		
<p>『源氏物語』「葵」「賢木」巻を対象として輪読を行う。発表担当者が担当範囲について、諸本の異同、諸注釈、現代語訳、調査・考察といった項目にわたって資料を使いながら発表し、その後、受講者相互の討議を行うことによって、『源氏物語』を読み深めるとともにその研究方法を学んでいく。発表担当はひとりにつき2回を予定。学年末にはレポートを課す。『源氏物語』は、調べれば調べるほど、奥深い世界を見せてくれる。受講生の積極的な取り組みが期待される。</p>		
(評価方法)		
<p>口頭発表 60%</p> <p>レポート 20%</p> <p>授業への取り組み状況 20%</p>		

【中世文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火
		【時限】4
【教員名】荒木優也	【登録番号】0000	
【テーマ】『古今和歌集』を読む		
(演習内容)		
<p>平安時代前期に成立した『古今和歌集』は、勅撰和歌集の最初であり、以後の日本文化の規範の一つを作り上げた歌集である。本演習では、小野小町・在原業平・僧正遍昭ら六歌仙、紀貫之・紀友則ら『古今集』撰者の和歌を中心に上げ、『万葉集』の歌などの先行する表現も視野に入れつつ、考察を進める。</p> <p>履修者は、『古今和歌集』の指定された和歌のなかから、前期1首、後期1首の計2首を必ず担当し、それぞれ先行研究・注釈書の比較検討、歌語の解釈、考察を行う。そして、学年末にはそれら2首のうち1首についてのレポートを提出することを義務とする。</p> <p>教科書は、小町谷照彦 訳注『古今和歌集』（ちくま学芸文庫）を用いる予定である。</p> <p>なお、卒業論文で荒木を指導教員に選ぶ可能性がある者は、履修することが望ましい。</p>		
(評価方法)		
発表資料・発表内容 50% 授業参加（質疑応答）20% 学年末レポート 30%		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木
		【時限】6
【教員名】荒木優也	【登録番号】0000	
【テーマ】新古今歌人の秀歌を読む		
(演習内容)		
<p>鎌倉時代初期に成立した勅撰集『新古今和歌集』は、日本詩歌史において殊に重要な和歌集の一つであり、本歌取りなどの技法により詠み出されるその和歌は絢爛豪華、優美繊細な様相を呈している。本演習では、この『新古今集』の代表的歌人17人(後鳥羽院・式子内親王・藤原良経・慈円・藤原俊成・俊成卿女・藤原定家・藤原家隆など)の秀歌を収載する私撰集『自讃歌』の写本を読み、考察を加えていく。</p> <p>履修者は、『自讃歌』の指定された和歌の中から、前期1首、後期1首の計2首を必ず担当し、それぞれ先行研究・注釈書の比較検討、歌語の解釈、考察を行う。そして、学年末にはそれら2首のうち1首についてのレポートを提出することを義務とする。</p> <p>なお、卒業論文で荒木を指導教員に選ぶ可能性がある者は、履修することが望ましい。</p>		
(評価方法)		
発表資料・発表内容 50% 授業参加（質疑応答）20% 学年末レポート 30%		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火 【時限】6
【教員名】野中哲照	【登録番号】0000	
【テーマ】中世散文の研究		
<p>(演習内容)</p> <p>中世散文の領域で、学生各自がテーマを持ち、それについてとことん調べ、読みこんで深く掘り下げて、研究発表をします。説話の人、軍記の人、日記・紀行の人、随筆の人など。作品ではなく、古典世界の文化論、時代社会論でも構いません。中学校・高校の頃、「押し付けられる勉強ではなく、自分の好きなことを研究したい」と思っていませんでしたか？今こそ、それを実現しましょう。ここでの発表に、決まった「型」もありません。</p> <p>卒論履修の人はその中間報告をしても構いませんし、卒論の研究余滴（脱線編、スピンオフ）でもよいです。非履修の人は中世散文の中から自由にテーマを選び、いわゆる「学術的な方法」にこだわらず、説得力だけをめざして研究発表してみてください。この授業で目指すのは、学生の主体性と問題解決能力の獲得です。そのために、押し付けられたものではなく、自分の問題意識に沿って何かを深めてみましょう。</p> <p>野中研究室で卒論を書く4年生、その予定の3年生は、履修を推奨します。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>平常点（出席点、授業時のレポートや研究発表） 定期試験は行わない。</p>		

【近世文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火
		【時限】5
【教員名】岩崎雅彦	【登録番号】0000	
【テーマ】八文字屋本浮世草子の研究		
<p>(演習内容) 江島其磧作の浮世草子『風流七小町』を扱う。八文字屋本は近世中期に刊行された時代物の浮世草子の総称である。</p> <p>『風流七小町』は享保七年(1722)上演の歌舞伎「けいせい七小町」を読物化した作品である。本作品は平安時代初期の惟高(惟喬)親王・惟仁親王位争いの事件を枠組とし、小野小町・大伴(大友)黒主らの六歌仙や染殿后・柿本紀僧正・深草少将らが登場する。また『平家物語』『太平記』等の軍記や小町物の能の趣向が取り入れられており、中古・中世の作品とも関わりが深い。</p> <p>授業は個人発表の形で、本文の注釈と現代語訳および考察を行う。</p>		
(評価方法) 各回の発表の内容を合計して評価する。欠席は原則として認めない。		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火
		【時限】4
【教員名】中村正明	【登録番号】0000	
【テーマ】洒落本を読み解く ―江戸の遊廓文化と文学―		
<p>(演習内容)</p> <p>洒落本は、江戸時代中期から後期にかけて刊行された江戸戯作の一ジャンルで、遊廓を中心とした世相風俗を描く、通人性に満ちた読み物である。その当世風俗・文化への「うがち」はきわめて写実的かつ滑稽で、江戸独自の遊廓文化と江戸の人々をいきいきと描き出すものである。</p> <p>本演習は、そうした江戸の時代層を正しく読解するとともに、近世的文学表現を把握・考察するものである。そのことが洒落本の理解のみならず、深く江戸文学理解へと結びつくことになる。会話体洒落本の先駆けである田舎老人多田翁作『遊子方言』(明和七年刊)ほか、代表的な洒落本作品を数作品読んでいく。</p> <p>近世文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。</p>		
(評価方法)		
演習発表 60%、授業参加(質疑応答) 30%、レポート 10%。		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木
		【時限】6
【教員名】中村正明	【登録番号】0000	
【テーマ】明治初期文学を読み解く — 毒婦小説『鳥追阿松海上新話』 —		
<p>(演習内容)</p> <p>本演習で扱う明治初期文学というのは、明治初年代から十年代を指す。近世から近代文学への移行期に当たるこの時期の文学は、政治の鳴動と社会・文化・思想の劇的変化を直接的に反映するものが多い。</p> <p>本演習では、明治初期のピカレスクロマンの先駆けともいえるべき、久保田彦作『鳥追阿松海上新話』(明治十一年刊)を読む。本作は新聞記事をもとに文芸化された作品で、実在した鳥追お松という女性が、美貌を武器にして次々と男性を騙して逮捕された事件を題材にした実録的毒婦小説である。そこに見られる明治開化期の人間像や新時代の文化風俗が、文学作品としてどう描出されているか、丹念に拾い出して読解することを主眼とする。現代の犯罪ルポルタージュやピカレスクロマン(悪漢小説)に興味のある学生は、その淵源をここに探ることも可能であろう。</p> <p>明治初期文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。</p>		
(評価方法)		
演習発表 60%、授業参加(質疑応答) 30%、レポート 10%。		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】月
		【時限】4
【教員名】岡崎 直也	【登録番号】0000	
【テーマ】堀 辰雄の文学		
<p>(演習内容) 堀辰雄は、非人称の客観的視点で各作中人物の深層心理を明晰に分析する「聖家族」で主語なし日本語構文の特徴を生かし、固定するはずの視点を〈婉曲表現〉の多用で各作中人物の傍らに寄り添わせつつ経験の切実さを掬い上げた。</p> <p>しかし堀は、叙述による小説の全知的な統御への不信から『美しい村』『風立ちぬ』において、小説を書く行為自体を一人称で小説に書く、いわゆる〈小説の小説〉の試みを繰り返す。主人公〈私〉の生が、同一人物である小説家〈私〉によって表現され、また逆に、その小説家〈私〉の創作行為が同一人物である主人公〈私〉によって生きられる、といった互いを問い直す円環を仕組み、小説家が向き合う現実と、それから創りあげようとする世界との相剋を丹念に追究したのであった。</p> <p>その後、多人物が交渉する〈ロマン〉を書くべく堀は「菜穂子」で非人称の客観的視点を再び採用するが、心理分析を排し、場面ごとに異なる作中人物に寄り添った心理や無意識の描写と、汎神論的な自然描写とによって、叙述の全知的な統御を慎重に避ける。モダニズム文学の推進者であった堀は、一方で古人の生活に学びながら王朝小説を書きつぎ、自然描写と照応する身体感覚によって〈生〉を実感する「曠野」を執筆した。主人公の女の心理は、叙述による断定とそこから幽かに逸れる内心の吐露とのあいだを揺らぐままに提示されている。</p>		

作品ごとに発表グループを作り、本文批評・注釈・研究史・鑑賞などの整理をもとに順次発表させ、提起された問題点について教員・学生相互の活発な質疑応答を図りたい。

(評価方法) 平常点 60% [発表・授業時小レポート・質疑応答]、単位レポート 40%

【近代文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ（★）	【開講学年】3・4年	【曜日】月
		【時限】3
【教員名】石川則夫	【登録番号】0000	
【テーマ】卒業論文作成に向けての研究発表		
<p>(演習内容)</p> <p>原則として石川則夫を指導教員とする卒業論文履修者（4年生）を対象とする。前期は各自の対象作品における先行研究論文の紹介と批判検討を発表し、夏期休暇中に「先行研究史」を作成し、提出。後期は、本論の途中経過報告を発表してもらう。</p> <p>なお、令和3年度の卒論履修者が27名もいるので、卒論非履修者の受け入れはできない。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>前期発表を踏まえて作成する「先行研究史」。後期の卒論作成、提出を踏まえて後期末に卒論提出後の課題点をレポートとして提出してもらう。当然であるが、本演習の評価と卒論評価は別である。</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】金
		【時限】5
【教員名】井上 明芳	【登録番号】0000	
【テーマ】横光利一・森敦研究		
<p>(演習内容) 新感覚派の旗手として記憶される横光利一は、新しい表現を追究した作家である。また森敦はその才能を横光に見出された作家である。そこで本演習では、前期に森敦「月山」を取り上げ、生成論的な視点を加えて構造的に徹底した読解を試みる。後期は横光文学の表現を構造的に分析することを目的とする。具体的には「上海」「紋章」「家族会議」「夜の靴」など、中編を中心に扱う。</p> <p>前期は森敦の代表作「月山」のみを扱い、発表してもらう。後期は横光作品をそれぞれ数回取り上げ、グループ発表してもらう。発表は先行研究を紹介し、研究史を概括した上で、独自の見解を提示する。その発表内容をめぐって質疑応答を行う。これらを通じて卒業論文制作の方法を身につける。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表(資料内容・口頭発表の内容・姿勢等) 50% レポート(前期25%後期25%) 50%</p>		

【近現代文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ（★）	【開講学年】3・4年	【曜日】金
		【時限】6
【教員名】井上 明芳	【登録番号】0000	
【テーマ】卒業論文作成のための日本近現代文学研究		
<p>(演習内容)</p> <p>*本演習は、井上に卒業論文を提出者が原則受講する。</p> <p>本演習は、受講者が卒業論文で取り上げる作家とその作品について、精緻に発表することを目的とする。受講者は、各々の作品について、先行研究をしっかりと踏まえ、独自の解釈を論理的に組み立てて発表する。そしてその後の質疑応答を取り入れて、最終的には卒業論文の完成を目指す。</p> <p>なお、卒業論文非履修者も受講は可能であるが、上記の内容に取り組んでもらうことになるので、注意して履修すること。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>前期発表30% 先行研究レポート20% 後期発表30% 課題・提出物20% (卒論非履修者も同様)。</p>		

【科目名】日本文学演習	【開講学年】3・4年	【曜日】月
		【時限】2
【教員名】鬼頭七美	【登録番号】0000	
【テーマ】新聞小説を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>明治時代のベストセラーとして名高い新聞小説をいくつか取り上げて精読する。尾崎紅葉の『金色夜叉』、徳富蘆花の『不如帰』などが大ヒットしたあとを受けて、我々に馴染みの深い夏目漱石の新聞小説へと至る流れを、作品の内容を読み解きながら確認していく。漱石については『それから』を取り上げる予定である。長編小説を複数の受講者が分割して分担し、それぞれのパートを読解し発表を行ってもらう予定である。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表、出席、授業中の発言（回数、内容など）、期末レポートなどにより、総合的に判断する。</p>		